

## 橋下徹大阪市長の発言に断固抗議！（案）

橋下徹大阪市長、あなたは5月13日の記者会見で『慰安婦』は必要だった」なぜなら「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、「慰安婦」制度が必要なのは誰だってわかる」と恥ずかしげもなく公言しました。さらに「世界の各地でも、軍隊が女性を利用しているのになんで日本だけがとやかく言われなければならないのか」と開き直りました。これら一連の発言に対して国内外から、怒り、批判、非難が集まると『慰安婦』制度を自分が認めているわけではない「当時は必要だったと言う事をいったまで」と詭弁を弄して再度、被害者の方々を傷つけ貶める発言を繰り返しました。

そしてあろうことか22日には、同じ維新の会の平沼赳夫代表代行が「従軍『慰安婦』といわれている人たちは『戦時売春婦』と思っている」と発言、また被害女性たちが怒りと、血の涙と、身を削る思いで請求した裁判を「昔は公娼制度があり、戦地売春婦をしていた女性が訴訟を起こしてきた」と話しました。私たちは、これらの発言に対して断固、断固抗議します！

日本政府、日本軍は年端も行かない幼い少女をはじめ大勢の女性たちを連行し、自由を奪い、恐怖と絶望で身動きできない中で、従軍＝軍に従い慰めを与えるという「慰安婦」、「性奴隷」としました。なぜ彼女たちが侵略戦争に駆り出され、人殺しをさせられる猛者集団を慰めなければならないのですか。あなた方には「自分たちのような思いを二度とさせてはならない。だから戦争は絶対にしてはならない」という、被害者たちの血を吐く叫びが聞こえないのですか。

そして、いつも繰り返す「強制性はなかった」という言い分。証拠は本当にないのですか。いいえ、ちゃんとあります。あなた方が見ようとしていないだけです。そのひとつに1942年にインドネシアのバリックパパンで主計中尉をしていた中曾根元首相が「・・・私は苦心して、慰安所をつくってやったこともある」と「終わりなき海軍」という回想録に書いています。

橋下市長、もっと歴史事実を認識してください。語られていること、書かれているものに目を向けてください。先月、面会を断った金 福童（キム ボットン）ハルモニ、吉 元玉（キル ウオノク）ハルモニはそれぞれ13歳と14歳で性奴隷とされました。幼い彼女たちがどうやって自分の意思で性奴隷になる事を了解できますか、どうやって戦地に行くことができますか。『生き証人の自分たちが何よりの証拠だ』といって、命をかけられたハルモニ達をまだ辱めるつもりですか。被害女性の方々は、自分たちの自由を奪い、戦場まで連れまわし、言葉も名前も奪い、戦後68年たってもまだ謝罪も賠償もしない日本に対して強く憤っています。そして、私達も同じく憤っています。

日本政府が「慰安婦」問題の解決を図ってこなかった事、そのことが今回のあなたの発言や、その前後を含めて繰り返される暴言、妄言につながっているからです。

「性奴隷」とされた被害女性者が願っているのは、次の世代が自分たちのような目に再び会わない社会をつくる事です。そのために勇気を奮い立たせ証言されているのです。その、女性たちの姿をあなたは直視することができますか。

私たちは、侵略戦争を反省し、その犠牲となった「慰安婦」被害者が望む解決の道筋を一刻も早く示すことを強く望みます。

さらに先の沖縄訪問の際には、米海兵隊司令官に対して、「海兵隊にもっと風俗業を活用してほしい」と提案しました。ここでもあなたは「命をかけて戦う男性兵士」の性的エネルギーの暴走を「コントロールする手段として女性を使う」という発想を恥ずかしげもなく披露し、沖縄の人々こころを土足で踏みにじりました。

あなたの歴史観の欠如、人権感覚のなさが再度暴露し国際社会から強く非難されています。

私たちは、橋下大阪市長が「慰安婦」被害者を冒とくし、沖縄を踏みつけ、人間の尊厳を踏みにじった事に強い怒りをもって抗議します。

そして以下のことを強く望みます。

- 1) 橋下大阪市長は、「慰安婦」被害者の方たちに誠実に謝罪する事。
- 2) 「慰安婦」問題に関しての発言を撤回すること。
- 3) 歴史と、『慰安婦』問題に関して真摯に学ぶこと。
- 4) 一連の発言に対して、責任を取ること。

2013年6月4日

「慰安婦」は必要だったと繰り返す橋下大阪市長に断固抗議する緊急集会参加者一同

連絡先 〒090-0909 札幌市東区北9条東7丁目1

ギャラリー茶門

TEL/FAX 011-711-1910